

令和7年度 学校経営計画

校長 千葉 雅樹

1 本校の教育目標

(1) 本校の教育目標

校 訓 「 創造 協調 実践 」

－ 教 育 目 標 －

- 培おう より温かく より豊かな心を … (徳性)
- 鍛えよう より強く より逞しい体を … (健身)
- 究めよう より広く より深い真理を … (知性)

(2) めざす学校像

「知恵」と「勇気」と「優しさ」に満ちあふれた学校

- 様々な課題に対し、仲間と共に学び合う（創造）ことができる学校
- 自ら進んで自分の夢や目標に向かって行動する（実践）ことができる学校
- 互いに思いやり、認め合い、協力する（協調）ことができる学校

【知恵】
【勇気】
【優しさ】

(3) 本校のめざす具体的な学校像

- ・ 通うことが楽しい学校 授業がわかり、自分の居場所がある学校
- ・ 明るく笑顔に満ちた学校 生徒・教師・保護者・地域の方々の笑顔に満ちた学校
- ・ 安心・安全な学校 生徒が安心して学び、安全に生活することができる学校
- ・ 信頼できる教師のいる学校 生徒の心に寄り添う先生がいる学校
- ・ 働きがいのある学校 教師のやる気に満ちた学校
- ・ 地域に開かれた学校 学校と地域が教育活動のねらいを共有している学校
(コミュニティ・スクール、地域学校協働活動 等)

(4) めざす生徒像

「知恵」と「勇気」と「優しさ」を身に付けた生徒

- ・ 自ら進んで課題を見つけ、課題解決する生徒
- ・ 自分の夢や目標に向かって行動する生徒
- ・ 最後まで諦めず、挑戦する生徒
- ・ 思いやりの心をもち、仲間と助け合う生徒
- ・ 明るい挨拶ができ、きまりを守って生活する生徒

【知恵】
【勇気】
【勇気】
【優しさ】
【優しさ】

(5) めざす教師像 (R.5. 3 北海道における「求める教員像」を基盤)

＜教育者としての人間性の視点＞

- ・ 子どもへの深い愛情をもち続ける教師
- ・ 教育者としての使命感や責任感・倫理観をもち続ける教師
- ・ 人間性、社会性、協調性をバランスよく身に付けている教師

・主体的に学び続ける教師

<教育の専門家としての視点>

- ・専門的な知識や技能を磨く教師
- ・授業力、生徒指導力、学級経営力等の向上に努める教師
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める教師
- ・課題解決のため、カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、検証・改善に努める教師
- ・特別な配慮や支援を必要とする子どもたちへの対応に努める教師
- ・ICTや情報・教育データを活用することができる教師

<学校づくりの一員としての視点>

- ・よりよい学校づくりの一員としての自覚を持ち続ける教師
- ・相手の考えの傾聴に努め、自分の考えを分かりやすく伝えることができる教師
- ・同僚性を大切にし、地域と連携・協働しながら、課題解決に取り組む教師

(6) 本校のミッション(「第4期教育振興基本計画」「R7教育行政方針」を基盤)

地域・学校や生徒の実情を踏まえながら、「こどもまんなか」の理念を大切にし、以下の施策を推進する。

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るための授業改善を進めること。
- ・一人一人の子どもが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるように育成していくこと。
- ・「本校の子どもに必要な資質・能力とは何か」を教科等横断的な視野に立ち、教育計画において明確にし、位置付け、育んでいくこと。
- ・一人一人の子どものウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良い状態にあること)の向上を図ること。
 - ①地域社会と共有・協働しながら地域の人的・物的資源の活用を図り、学校教育を学校内に閉じない教育課程(体験活動、放課後活動など)の実施。
 - ②関係機関との連携を図り、特別な支援や配慮の必要な子どもたち(障害のある子ども、医療的ケアの必要な子ども、病気療養中の子ども、虐待、ヤングケアラー、貧困、不登校、性的マイノリティ等)に対する適切な教育環境の整備
- ・一斉学習や個別学習、協働学習など様々な学習場面において従来の対面指導に加え、遠隔・オンライン教育やデジタル機器を活用し、リアルとデジタルを融合した授業づくりに取り組むこと。
- ・感染症(新型コロナ、新型インフルエンザ等)、熱中症、不登校、いじめ問題など、学校がどんな状況に置かれようと子どもたちの安心・安全な環境づくりを考えながら、「学びの保障」に努めること。

2 本校を取り巻く環境

(1) 地域の状況

緑が丘地区は、旭川市の中心部から南南東約4.5kmに位置し、昭和45年に旭川市の神楽岡団地造成計画によって開発され、小学校、中学校、高校、大学などの教育環境に恵まれた地区である。また、令和7年3月1日現在、世帯数が約9600世帯。人口が約1万8000人。そして、14才以下の人口が約10%、65才以上の人口が約36%であり、少子高齢化が進んでいる。旭神・神楽岡東・緑が丘・緑が丘東・西御料地の5地区で構成される地区市民委員会がある。

(2) 保護者の状況

会社員がほとんどであり、共働き世帯が多い。学校教育に対する関心と期待が高く、保護者・地域の方々は学校に対して協力的である。

(3) 子どもの状況

校則を守り、充実した学校生活を送っている生徒、学力が高く、素直で礼儀正しい生徒が多い。一方で、対人関係構築が苦手な生徒、オンラインゲーム、LINEやFacebook、TikTok、XなどのSNSに触れている時間が長い生徒、不登校傾向生徒も見られる。また、低学力層も一定数見られる。

3 本校の学校課題

以下の調査結果をもとに、本校生徒の教育課題を整理した。

- ・令和6年度全国学力学習状況調査（生徒質問紙を含む）
- ・生徒・保護者アンケート（前期・後期）
- ・教職員自己評価（前期・後期）

〔重点目標達成に向けた成果指標の結果〕

	R5結果	目標	R6結果
<生徒アンケート>			
1 学校へ行くのが楽しい	83%	90%	82%
2 学校の授業に主体的に取り組んでいる	91%	90%	89%
3 挨拶や言葉遣いができている	95%	95%	92%
4 自分の生き方について考えている	85%	85%	91%
5 困りごとや不安があるときに先生方に相談できる	67%	85%	85%
6 「知恵と勇気と優しさ」を発揮して学校生活を送っている			90%
<保護者アンケート>			
1 学校生活の様子が伝わっている	80%	95%	94%
2 明るく元気に学校に通っている	80%	95%	85%
3 個々の生徒の実態に応じた授業を行っている		95%	79%
4 家庭学習に取り組むことができている	66%	85%	69%
5 色々なことを相談しやすい雰囲気になっている	78%	85%	81%
<教職員による学校評価>			
1 教職員1人ひとりが経営の参画者としての自覚	95%		90%
2 年度の研究重点を意識した授業改善	95%		87%
3 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実	95%		94%
4 学年内、学級間の連携の強化	95%		91%
5 働き方改革を意識し、教育の質を高める工夫	95%		69%

※ 令和6年度全国学力学習状況調査結果

全国平均以上

↑

↑

(1) 本校の教育課題

- ◆ 学習意欲、基礎学力の向上、**家庭学習**
- ◆ 自分のことを知り、自分らしい生き方について考える力の育成
- ◆ 自分自身を受け入れ、前向きに考えることができる力の育成
- ◆ **コミュニケーション能力** (読む・聞く・考える・話す・書く)、**問題解決能力の育成**
- ◆ **自ら進んで挑戦**し、ねばり強くやり抜く姿勢の育成
- ◆ 自己効力感 (「自分ならできる」「きつとうまくいく」) の育成
- ◆ **多様な子ども** (**支援の必要な子、不登校、性的マイノリティ等**) **に対する適切な支援**
- ◆ **メディアリテラシーの育成**
(TV、インターネット、SNSなどのメディアからの情報を正しく理解し、活用する力)

(2) 本校の経営課題

上述の教育課題を受け、以下の観点を経営課題として捉えた。

- 目標を共有し、組織として機能する教職員集団づくり
- **必要な資質・能力を身に付けさせる教育課程**の実施と評価・改善
- 教師力を高める研修の実施
 - ・ **授業改善** (誰1人取り残さない授業 主体的・対話的で深い学びを実現させる授業 ICTの積極的な活用)
 - ・ キャリア教育
 - ・ **いじめ** (いじめ防止基本方針の共通理解と組織対応に関わる研修)
 - ・ **不登校・ICT・LGBTQ・SNS** 等
 - ・ **メディアリテラシー教育**
- **小中・家庭・地域と連携した学校づくり** (C・S、地域学校協働活動)
- **危機管理意識**の高揚と機能的な体制づくり (**感染症、熱中症対応**等)
- **全ての子どもが安心・安全に生活することができる学習環境の整備**

4 本校の中期ビジョン (令和6年～令和7年)

知恵と勇氣と優しさに満ちあふれた学校

＜緑中のキーワード＞
「知恵」と「勇氣」と「優しさ」

(1) 本校生徒に求められる資質・能力

- 「知恵」…自ら課題を見つけ、解決の方法を考え、表現する力**
※読む・聞く:インプット→考える→話す・書く:アウトプット)を基盤とし、
- ・ 課題を発見する ・ 質問する ・ 多様なデータから必要な情報を収集する
 - ・ 集めた情報を活用し、課題解決に取り組む ・ 筋道を立てて考える
 - ・ 自分の考えを分かりやすく表現する ・ 個性を伸ばす
 - ・ 自分らしい生き方について考える (将来の夢や希望)
- 「勇氣」…主体的に取り組み、粘り強く、挑戦する力**
※自己効力感 (「自分ならできる」「きつとうまくいく」)を基盤とし、
- ・ **目的意識をもち**、目標達成に向けて努力する ・ 積極的に挑戦する
 - ・ 粘り強く取り組む ・ 最後までやり抜く
- 「優しさ」…自分のよさを知り、自他に優しく、仲間と協力する力**
※自己肯定感 (自分がかけがえのない存在であると肯定する)を基盤とし、
- ・ 自分を大切にする ・ 自分を知ることを知る ・ 仲間と協力する
 - ・ **明るい挨拶をする** ・ 相手の立場で考え、思いやる
 - ・ **アサーティブな思考**を心がける ・ 誠実に行動する
 - ・ サーバントリーダーシップを発揮する

(2) 中期目標（1年後の到達イメージ）

＜学校・地域・家庭が協働し、知恵と勇気と優しさに満ちた学校経営の推進＞
 ・自ら課題を見つけ、解決する方法を考え、表現する生徒 **「知恵」**
 ・自ら進んで挑戦し、粘り強く取り組む生徒 **「勇気」**
 ・自分のよさを知り、自他に優しく、仲間と協力する生徒 **「優しさ」**

(3) 中期目標達成のための重点的取組

- 自分らしい生き方について考える**キャリア教育**
- 自ら進んで課題を見つけ、協働し解決する力を育む**学習指導**
 ※「**緑中10の施策**」の推進
- 協働的な学びを重視した**総合的な学習の時間**
- 生徒が主体的に行動し、自らの考えを表現する力を育む**特別活動**
- よりよく生きるための道徳性を養う**道徳教育**
- 生徒の心に寄り添い、共感し、自己実現を促す**生徒指導**
- 自他を大切にすることを育む**体育的行事、健康安全教育**
- 特別支援コーディネーターを中心とした個に応じた**特別支援教育**
- 主体的に活動する生徒を育む**学年・学級経営**
- 「学びを止めない」を前提に、創意工夫した**安心・安全な教育環境**

5 本年度の学校経営方針

(1) 本年度の重点目標

学校・地域・家庭が協働し、
知恵と勇気と優しさに満ちたあふれた学校経営の推進
 ～**活動の意義を考え、主体的に行動する**ことができる生徒の育成～

＜具体的な推進事項（カリキュラム・マネジメント）＞

①成果指標を具体化し、各取組における重点化と絞り込みを行う。

〔重点目標達成に向けた成果指標の結果と目標〕

＜生徒アンケート＞	R 5	R 6結果	R 7目標
1 学校へ行くのが楽しい	83%	82%	90%
2 学校の授業に主体的に取り組んでいる	91%	89%	90%
3 挨拶や言葉遣いができている	95%	92%	95%
4 自分の生き方について考えている	85%	91%	90%(85)
5 困りごとや不安があるときに先生方に相談できる	67%	85%	90%(85)
6 「 知恵と勇気と優しさ 」を発揮して学校生活を送っている		90%	90%
＜保護者アンケート＞			
1 学校生活の様子が伝わっている	80%	94%	95%
2 明るく元気に学校に通っている	80%	85%	90%(90)
3 個々の生徒の実態に応じた授業を行っている		79%	95%
4 家庭学習に取り組むことができている	66%	69%	80%(85)
5 色々なことを相談しやすい雰囲気になっている	78%	81%	85%
＜教職員による学校評価＞			
1 教職員1人ひとりが経営の参画者としての自覚		90%	95%
2 年度の研究重点を意識した授業改善		87%	95%
3 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実		94%	95%
4 学年内、学級間の連携の強化		91%	95%
5 働き方改革を意識し、教育の質を高める工夫		69%	80%(95)
※ 令和7年度全国学力学習状況調査結果	全国平均以上	↑	↑

- ②校内組織を活用し、組織的に校務を行い、教職員1人ひとりの業務内容のフラット化を進め、教育活動の質の向上を目指す。
- ③自己効力感や自己肯定感を高め、自分らしい生き方について考える力を育成するため、キャリア教育の視点を意識した教育活動を推進する。
(道徳、総合的な学習の時間、特別活動、各教科等)
- ・小さな成功体験を積み、生徒の良いところを褒める教育活動
 - ・わくわくドキドキできる体験活動
 - ・結果に至るまでのプロセスや努力を重視する評価
- ④教務部と学力向上委員会を中心に、学力向上の取組を推進する。
- ・学力向上推進プランの作成
 - ・令和6年度における各種テスト、調査等の分析と活用
 - ・家庭学習時間を増やす取組の企画と運営
 - ・オンライン学習、ICT機器、デジタル教材の活用推進
 - ・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた授業研究
- ⑤学習指導については、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を推進する。
- ・「わかった」「できた」を実感させる授業の推進
 - ・問題解決的な学習を基盤とした学習意欲を高める工夫
 - ・「読む・聞く→考える→話す・書く」活動を取り入れた授業の推進
 - ・ICT機器を活用した一斉学習、個別学習、協働学習の推進
 - ・自らの課題を見つけ、その解決策を考えるための「振り返り」を取り入れた授業の推進（自己調整力の育成）
- ⑥生徒指導においては、常にゴールを見据えた迅速・丁寧・誠実な組織対応を推進する。
- 「スピード感」をもち、「わかりやすく」、「相手を思いやり」対応する
- ⑦普通学級における特別な配慮を要する生徒や不登校傾向の生徒、医療的ケアが必要な生徒、病気療養中の生徒など多様な生徒への「学びの連続性」を確保するために、地域や関係機関との連携協力体制を強化する。
- ・ICT機器、オンライン学習、デジタル教材等の有効活用
 - ・校内教育支援センター事業を活用した不登校生徒対応
 - ・スクール・カウンセラー、児童相談所、こども総合相談センター、警察、医療機関、等
- ⑧ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良い状態にあること）の視点に立ち、特別支援学級に所属する生徒一人ひとりの実態に応じ、将来を見据えた教育活動を推進する。
- ⑨小中教頭・主幹教諭を中心に、地域と連携・協働し、学校運営協議会、地域学校協働活動等の基盤づくりを進める。
- ⑩感染症や熱中症対応、服務規律、いじめ対応、不審者対応などを含む危機管理体制を構築する。